

【温泉街別府】 (一) 湯の街別府

大分県は自ら“温泉県”とアピールするほど、日本国内で温泉の県として広く知られている。特に県内に所在する別府市は有数の温泉観光地で、年間の観光客は国内海外合わせて約 900 万人が訪れているほど人気のある温泉地。そこで、別府温泉についての魅力を少しお伝えしたい。



外国人観光客に人気のある竹瓦温泉

大分県は日本の南端に当たる九州地方にあり、福岡や長崎、佐賀、熊本、宮崎、鹿児島 の 7 県で構成された 1 県。その九州地方は、東京や大阪といった日本を代表する大都市がある本土とは海（関門海峡）で隔てられている。本土あるいは内地と呼ばれる本州と九州を結ぶのが関門トンネル（1958 年開通、全長 3461 ㎞）で、海底に沈むトンネルで九州と本州を移動するのだが、もちろん歩いてでも往復できる。

そして九州の北部に位置しているのが大分県で、大都市の福岡県と接しており、別府市は大分県を代表する温泉の街として日本国内ではよく知られている。人口は約 12 万人で市域面積は約 125.34 ㎢とそれほど大きな都市ではないが、日本国内の地方都市に比べて人口の約 1 割が外国人と多いので国際観光都市と

いう名称も使っている。なぜ外国人が多いかというと、市内には立命館アジア太平洋大学（APU）と別府大学の2校が多く留学生を毎年受け入れているため、一部の卒業生が帰国せず就職するなどして、そのまま生活していることも影響しているようだ。



昭和レトロの雰囲気がある駅前高等温泉

国際観光都市だけに、年間を通して海外からの観光客が大勢訪れているが、さすがにコロナ騒動の今では観光客の姿は少ないものの、訪れる観光客の目的は温泉入浴に他ならない。特に「別府温泉」は別府市を代表する言葉だが、少々不正確な表現で、正しくは「別府温泉郷」あるいは「別府八湯」と言う。

なぜなら、市内には浜脇温泉、亀川温泉、鉄(かん)輪(なわ)温泉、観海寺温泉、堀田温泉、柴石温泉、明礬(みょうばん)温泉があり、別府温泉はそのうちの一つだからだ。これら8か所の温泉地はすべて独立した源泉で泉質が違う。何しろ、別府の温泉は約2300の源泉があり、現在日本全国で確認されている硫黄泉や含鉄泉などの泉質10種類のうち8種類が湧き出しているのも、これだけの泉質を持っているのは、ここ別府市だけだ。



JR 日豊本線別府駅前にある手湯

市内 8 か所の温泉スポットには、ホテルや旅館の他に単独の入浴施設が多数あり、観光客は所定の入浴料を払えば自由気ままに入浴することができる。中でも明礬温泉の“硫黄湯”や“泥湯”などは観光客の人気湯で、別府温泉の駅前高等温泉あるいは竹瓦温泉は日本の昭和時代を彷彿させる雰囲気漂わせて入浴客が後を絶たない。ただし、こうした入浴施設は観光客専用ではなく、一般の別府市民も利用するので入浴マナーには気を付けたほうが良い。温泉の魅力は言葉で表してもなかなか伝わらないので、やはりここは体験するのが一番。早くコロナ騒動が収束して別府にお越しになれる日をお待ちしている。

文 鈴木源柱